

言葉の壁はどうして生じたのか？

～ポケットーク・バベルの塔～

岩本友則

「ポケットークは、55 言語で音声とテキストに、19 言語でテキストのみに翻訳します。英語や中国語はもちろん、ロシア語やポルトガル語の方言まで、合計 74 言語でコミュニケーションができます。」 こんな広告が目にとまりました。AI 技術の進歩により「言葉の壁：language barrier」が薄れつつあるようです。

この地球上の人口は約 80 億人（2020 年）、7000 を超える言語が使われており、その中で、主な言語は 23 とされています。

言葉の違いは何処から

言葉の混乱、旧約聖書の創世記 11 章において神がバベルの塔建設阻止のために言葉を混乱させたことが、以下の様に記述されています。

・・・さて、全地は一つのことば、一つの話しことばであった。そのころ、人々は東のほうから移動して来て、シヌアルの地に平地を見つけ、そこに定住した。

彼らは互いに言った。「さあ、れんがを作ってよく焼こう。」彼らは石の代わりにれんがを用い、粘土の代わりに瀝青を用いた。

そのうちに彼らは言うようになった。「さあ、われわれは町を建て、頂が天に届く塔を建て、名をあげよう。われわれが全地に散らされるといけないから。」

そのとき主は人間の建てた町と塔をご覧になるために降りて来られた。主は仰せになった。「彼らがみな、一つの民、一つのことばで、このようなことをし始めたのなら、今や彼らがしようと思うことで、とどめられることはない。さあ、降りて行って、そこでの彼らのことばを混乱させ、彼らが互いにことばが通じないようにしよう。」

こうして主は人々を、そこから地の全面に散らされたので、彼らはその町を建てるのをやめた。

それゆえ、その町の名はバベルと呼ばれた。主が全地のことばをそこで混乱させたから、すなわち、主が人々をそこから地の全面に散らしたからである。」（新改訳聖書の引用 「主」とは神こと）

言葉の違い バベルの塔をメソポタミア文明の地で

私は、1997 年国際機関の仕事のためイラクに滞在したことがありました。ここイラクは、チグリス・ユーフラテス川が育んだメソポタミア文明の地です。

（写真はチグリス川、当時イラクでは、軍事戦略の観点から川や橋の撮影は禁止の中、記念撮影かつ場所限定でイラクの許可を得たため私も写真に入る必要があった）



バグダッドより約 130km 北北東の街で故フセイン大統領の故郷のティクリートの約 40km 南のチグリス川沿いのサーマッラーの街で、まるで旧約聖書に記載されているバベルの塔を連想させる写真の建造物を見つけました。



残念ながら写真の塔はバベルの塔ではありません。通称サーマッラータワーと呼ばれる約 AD850 年に建設されたイスラム教の建造物でマルウィーヤ・ミナレット (Malwiya Minaret) です。

この塔は、塔の外側に螺旋階段があり登ることができます。私も登って見ましたが、なんとこの狭い階段 (幅 1.5m 位) を子供達が競争しながら駆け下りてくるではありませんか、柵の無い階段、誤って落下すれば、確実に死ぬこととなります。上の方の赤い矢印の所に写っているのは、アベックが塔の上から降りているところです。(注：私が滞在当时、男女が 2 人で歩けるのは、既婚または婚約時、婚約未済は違法)

この塔は、直径は 27m で高さが 53m ですから、天まで届くバベルの塔と比較できるものではありません。

バベルの塔建設の地 バビロン

私は、かつて栄華を誇ったバビロニア帝国、バビロンの遺跡 (イラクの首都バグダッドから約 100 km 南) を訪れたのです。この遺跡の北のはずれには、バビロニア帝国の象徴であるライオンの像が、今日そのまま立っています。また、南の外れにバベルの塔の跡があります。(下の写真)

写真では、草むらにしか見えませんが、実際には非常に大きくて深いのです。その大きさと深さから、建設された塔の大きさが如何に大きいものであったか想像できます。また、その建設手法



は、現在の高層建築を建てる場合と同様に岩盤まで掘り下げて盤石な土台の上に立て上げられたものです。

しかしながら、今は草が茂り、水が溜まり池のようになっていました。国連の制裁下にあった当時、訪れる観光客もいない中、めったに来ない観光客を待つガイドがいました。そのガイドさんの説明によると、バベルの塔の建設に使われたレンガ

は、人々が自分の家を建てるために取って行って、無くなってしまったからだそうです。更にガイドさんは、旧約聖書の創世記 11 章によれば、言葉を変えて混乱させ散らされたとありますが、イラクの言い伝えによれば、もともと言葉は違って、そのため互いの意志疎通を欠き散っていった」と言うのです。

バベルの塔の跡は本物か？

これが本物のバベルの塔の跡なのでしょうか？ メソポタミアにおける考古学的発掘調査によると、シュメールの複数の町で、最上階に神殿を築いた巨大な方形の塔の跡が発見されています。それらは山を模した人工丘で、主に日干しレンガとアスファルトを使用して作られており、ジググラトと呼ばれ、バビロンで見つかった粘土板に楔形文字で記された物語によれば、この地の塔の土台



は幅と奥行が約 90 メートル、高さは神殿自体も含めて 100 メートルほどあったと記されています。また、ある記録には、アッカド王シャル・カリ・シャルリ（紀元前 2250 年頃）がバベルの塔を再建に着手したとあります。そして、再建を果たしたのが、ネブカデネザル 2 世（紀元前 605—562 年在位）であったと碑文に記されているのです。古代ギリシャの歴史家ヘロドトスもその塔を目撃した（紀元前 460 年頃）と記しています。多分ヘロドトスは、世界の七不思議の一つであるバビロンの空中庭園の先に再建されたバベルの塔を見たことでしょう。

アラブ諸国で使われないのに何故アラビア数字と言うのか？

私たちが学校で教わった数字を、アラビア数字として学びました。しかしなんとイラク、イラン、バーレーン等私が行ったアラブ諸国では、アラビア数字が使われていないのです。アラブ諸国で使われていない数字を、何故アラビア数字と言うのでしょうか？

アラブ諸国で使われている数字は、ローマ数字とも異なるアラビア語数字とペルシャ語数字であり、私たちが使う数字との違いを下記の表で見てください。

アラビア数字	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
アラビア語数字	٠	١	٢	٣	٤	٥	٦	٧	٨	٩
ペルシャ語数字	۰	۱	۲	۳	۴	۵	۶	۷	۸	۹
インド数字	०	१	२	३	४	५	६	७	८	९

上の数字比較表から下記のフセイン札（ディナール）とホメイニ札（リアル）に書かれている数字から紙幣が幾らなのを考えてください。



世界には、同じ発音で同じ意味の言葉がある

バベルの塔の前の旧約聖書の記述は、ノアの箱舟です。墮落し暴虐に満ちた人類は、大洪水により一掃されますが、神の前に正しい人であったノアは、箱舟により家族と共に救われます。そして、ノアの3人の息子（セム、ハム、ヤペテ）が、世界に散っていくわけですから聖書的には言葉は1つとなります。

イラク滞在当時、50°Cを超える暑さの中で、甘くて熱い紅茶は実においしい飲み物で「チャーイ」と呼ばれていました。すると、ロシア人がロシアでもインドでも「チャーイ」と言い多くの国で「チャーイ」と言うのだそうです。韓国では「チャ」と言い日本とほぼ同じ発音です。

世界では多くの言語がある中、同じ発音、同じ意味の言葉があります。日本語で相槌を打つときに「あっそう」と言うますが、ドイツ語でも微妙に発音が違いますが、「アッソー」と言えば十分に会話になります。また、私は、かつてトルコの大学教授で言語学者と話したことがありました。彼の研究によれば、トルコ語と日本語には、同じ発音で同じ意味の言葉が約20あると言うのです。その例として日本語の「山」トルコ語でも「ヤマ」と言い、また、日本語の「来る」トルコ語でも「クル」と言います。

世界には多くの言語がある中で、このように同じ発音、同じ意味があること、これは、バベルの塔の建設を阻止するためにもともと一つであった言葉を、神が混乱させた名残りだと思いませんか？

おわり